

1 研究主題との関わり

読み取ったことを伝え合い、考えを深める指導法の工夫

自校の研修テーマ「進んでかかわり合いながら学びを確かにする子」のもと、「考えをもつためのかかわり」「考えを深めるためのかかわり」を日々の授業に位置付けて授業改善を進めてきた。

「考えをもつためのかかわり」では、教材の提示や学習課題、発問を工夫することで子どもの追求意欲を高め、自分の考えをはっきりもたせるようにする。また、「考えを深めるためのかかわり」では、ペアやグループ、学級全体などの子ども同士が交流する学習形態を工夫したり、話し合いの組織の仕方を子どもの実態に合わせてすることで、一人一人の考えが深まるようにしていく。

入門期の国語学習において、さまざまな実態をもつ子どもたちが基礎基本を確実に身につけながら、自分の学びを仲間と交流する中で考えを深める楽しさを味わわせていきたい。

2 実践の概要（1年生）

国語 ちがいをかんがえてよもう 教材文「どうぶつの 赤ちゃん」（ますい みつこ）

(1) ねらい

順序などを考えながら内容の大体を読み、文章の中の大事な言葉や文を書き抜くことができる。

(2) めざす子どもの姿

- 「ちがいはどこか」という視点をもって、大切な言葉がどれか考えながら読む。
- 根拠をもって、自分の考えを書く。
- 互いの考えが同じか違うか考えながら、伝え合う。
- 「ちがい」という視点をもって、他の図鑑の文章を読む。

(3) 具体的な手立て（指導法の工夫）

① 考えをもつためのかかわり

あ) 単元の初めにいろいろな動物の赤ちゃんの特徴を見付ける活動を組織する。

ゴリラやイルカ、アザラシなどいろいろな赤ちゃんの写真を提示して興味をもたせると共に、分かったことや気がついたこと・思ったことを出させる。同じ動物でも、種類によって違いがあることに気付かせる。

い) しまうまの赤ちゃんとライオンの赤ちゃんの違いを見付ける。

教材文を読み、「違い」が中心の話題になっていることを全体で確かめる。そして、どのような「違い」が書かれているのか、見付けたことを交流し合う。

② 考えを深めるためのかかわり

あ) しまうまの赤ちゃんのとライオンの赤ちゃんでは、どちらの赤ちゃんが「えらい」と思うか、考えを交流する。キリンかライオンか、どちらか立場を明確に決めて、なぜ偉いと思うのか理由を交流し合う。どのような点を根拠にしているのか、互いの違いを確かめて、そのような意見もあるのかと新しい視点を得ることができる。

い) 単元の終わりに、他の動物の赤ちゃんの図鑑を読み、赤ちゃんの特徴をノートに書く活動を組織する。

調べたい動物ごとにグループをつくり、図鑑を読む。仲間同士で教え合いながら、色や

体の大きさ、成長の早さなど、学習した視点を生かして動物の赤ちゃんの特徴を読み取り、ノートにまとめる。

(4) 授業の実際

①動物の赤ちゃんに興味をもち、違いを交流し合う子ども

動物の赤ちゃんの写真を子どもたちに提示したとき、動物の名前を教えなかった。子どもたちは、何の動物か考えながら写真を見た。写真は全部で14枚提示した。分かりやすい赤ちゃんがある一方、一目見ても何か分からない赤ちゃんがあり、興味を高めて見ていた。それぞれの動物の名前を教えると、動物によっていろいろな違いがあることに驚いていた。

その後、教材文を読み、「読む人に問いかけている文」を探した。その活動を通して、動物の赤ちゃんが「どんな様子をしているか」「どのようにして大きくなっていくか」という二つの話題について書かれていることを確かめることができた。また、二つの話題についての答えがどの段落に書かれているか検討することにより、話の大体をつかむことができた。

そして、ライオンとしまうまの赤ちゃんについて、見付けた違いを発表し合う中で、様子と成長という二つの視点で違いが書かれていることを理解することができた。

【子どものノートより】

「ライオンは目や耳がとじているけど、しまうまは30ぷんもしないうちにあるける。」

「ライオンはすぐ大きにならないけど、しまうまはすぐあるける。」

②互いの注目している点の違いに気付き、読みを深める子ども

「ライオンとしまうまの赤ちゃんでは、どちらがえらいか。」という発問に、子どもたちの意見は分かれた。それぞれ理由を考えてノートに書き、全体で意見を交流し合った。

【子どものノートより】

「ライオン。どうぶつの王さまだから、えらい。」

「しまうま。30ぷんもたたないうちにしまうまはたてるからです。」

最初はライオンが偉いと思う子どもが多かったが、しまうまがすぐに立てる、そして歩けるという意見を聞いて、しまうまだと考える子が出てきた。それを見た子どもが次のような意見を出した。

「しまうまはべんきょうしていないけど、ライオンはえもののと리카たをべんきょうしているから、えらい。」

なるほどと納得する子どもがいた。互いの根拠を交流し合うことで、新しい考え方を得ることができた。

③いろいろな動物の赤ちゃんについて調べる子ども

単元の終わりに、興味のある動物の赤ちゃんごとにグループをつくり、図鑑を見て調べた。調べたことはノートにまとめた。イルカやアザラシ、ゴリラ、キツネなどについて、「様子」と「成長」という二つの視点をもってノートに書くことができた。

3 成果と課題

「どちらがえらいか」という二者択一の発問から、子どもたちは同じ読み取った内容でも、解釈の違いがいろいろあることに気付いた。意見が分かれるような交流は、子どもたちの多様な考えを引き出し、それまでの解釈を一段深めることができる。今後も、そのような発問を研究したい。一方で、自分の意見を明確にすることに時間がかかる子どももいる。仲間の意見をどのように生かせばいいのか示したり、教師の個別指導をしたりして、考えを明確にさせる手立てを工夫したい。